

# 平城宮跡歴史公園の開園の取り組みについて

伊藤 秀信<sup>1</sup>・畠山 則一<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 工務二課(〒630-8012 奈良県奈良市二条大路南三丁目5-1)  
<sup>2</sup> 近畿地方整備局 国営飛鳥歴史公園事務所 工務二課(〒630-8012 奈良県奈良市二条大路南三丁目5-1)

## 論文要旨

平城宮跡歴史公園は、平成20年度の閣議決定に基づき、「古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて“奈良時代を今に感じる”空間」として歴史・文化遺産を活かした国営公園として事業を進めており、今般、公園利用の拠点となる「朱雀門ひろば」等について整備が進んだことから、平成30年3月24日(土)に国営公園部分と奈良県営公園部分を同時に供用開始したところである。

本研究では、主に開園に至るまでの準備、特に県営公園部分と一体となった公園整備の取り組みと、今後の復原事業の展開を整理することで、今後の奈良観光の新たな賑わい拠点として活用される歴史・文化遺産を活かした公園整備の取り組みについて発表するものである。

キーワード：観光立国、一体整備、住民参加

### 1. 平城宮跡歴史公園の概要

「平城宮跡歴史公園(以下、「本公園」という。)」は、我が国を代表する歴史・文化資産である。「平城宮跡」の一層の保存・活用を図る目的で、平成20年10月の閣議決定により、国営公園として整備を行うことが決定されました。また、平成20年12月には、事業の実施に先立ち、公園の整備・管理を進めて行く上で踏まえるべき基本的事項を定めた「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域 基本計画」を策定しました。公園基本計画の策定に際しては、文化財の保存や活用に詳しい学識経験者や関係機関の代表者で構成する検討委員会を設けるとともに、広く国民から意見を聞くため、パブリックコメントを行いました。

今回の開園は、「朱雀門ひろば」を中心として公園を案内する施設等が完成したことで奈良県営公園区域と併せて平城宮跡歴史公園として平成30年3月24日にオープンしました。



図-1 平面図



写真-1 平城宮跡歴史公園の開園

### 2. 公園基本計画における基本理念・基本方針

公園基本計画では、文化庁が策定した「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想(昭和53年)」や、「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画(平成20年)」の内容を踏まえ、基本理念と基本方針を設定しています。

- 基本理念(目指すべき公園の姿・あり方)  
古都奈良の歴史的・文化的景観の中で、平城宮跡の保存と活用を通じて、“奈良時代を今に感じる”空間を創設する
- 基本方針(基本理念を満たす公園を実現するための方針)の要旨

#### ① 特別史跡・世界遺産である歴史・文化資産としての適切な保存・管理

平城宮跡が、国の特別史跡として指定され、世界遺産として登録された「古都奈良の文化財」の構成資産で

あることを尊重し、貴重な歴史・文化資産として確実に保存し、良好な状態で後世に伝える。

② 古代国家の歴史・文化の体感・体験

遺跡の公開や空間スケールを活かした遺跡の表現、平城宮跡周辺の古都奈良の歴史的・文化的景観と併せ、往時に思いを馳せることのできる景観の形成を図る。また、興味をかき立てるわかりやすい解説や多彩なイベントを実施する。

③ 古都奈良の歴史・文化を知る拠点づくり

古都奈良の歴史・文化を伝える情報発信のセンターとなるとともに、歴史・文化等を通じた国際交流の拠点としての活用を図る。

④ 国営公園としての利活用性の高い空間形成

快適な空間づくりときめ細やかなサービスの提供。併せて、地域住民・NPOをはじめとした多様な主体が整備、管理・運営に参画し、公園に集う人全てで作り、育む公園とする。

3. 平城宮跡の保存・整備の経緯

平城宮跡は、棚田嘉十郎らをはじめとする地元有志により保存活動が展開され、大正11(1922)年に史跡として指定されてから、これまで継続して国により保存・整備が図られてきました。

表-1 平城宮跡の保存・整備の経緯

大正 11 (1922) 年	「史跡」指定
昭和 27 (1952) 年	「特別史跡」指定
昭和 34 (1959) 年	奈良文化財研究書による継続的な発掘調査の開始
昭和 53 年 (1978) 年	「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想」策定(文化庁)「遺跡博物館」として段階的な整備を開始
平成 10 年 (1998) 年	文化庁による朱雀門・東院庭園の復原 ユネスコ世界遺産登録(「古都奈良の文化財」の構成資産の一つ)。
平成 20 年 (2008) 年	「特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画」策定(文化庁) 国営公園化に関する閣議決定・事業化「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園 平城宮跡歴史公園 平城宮跡区域基本計画」策定(国土交通省) 第一大極殿正殿の復原が完成(文化庁) 平城遷都 1300 年祭を開催(平城遷都 1300 年記念事業協会)
平成 21 年 (2009) 年	国営公園、県営公園を合わせた区域を「平城宮跡歴史公園」として都市計画決定
平成 30 年 (2018) 年 3 月 24 日 (土)	開園

4. 本公園の区域

本公園は、特別史跡平城宮跡の国有地を中心に、史跡平城京朱雀大路跡とその東側を加え、国営公園の区域とするとともに、その周辺において、奈良県が西側の整備を行い、国営公園と連携した整備を行う一体的な公園整備を行いました。

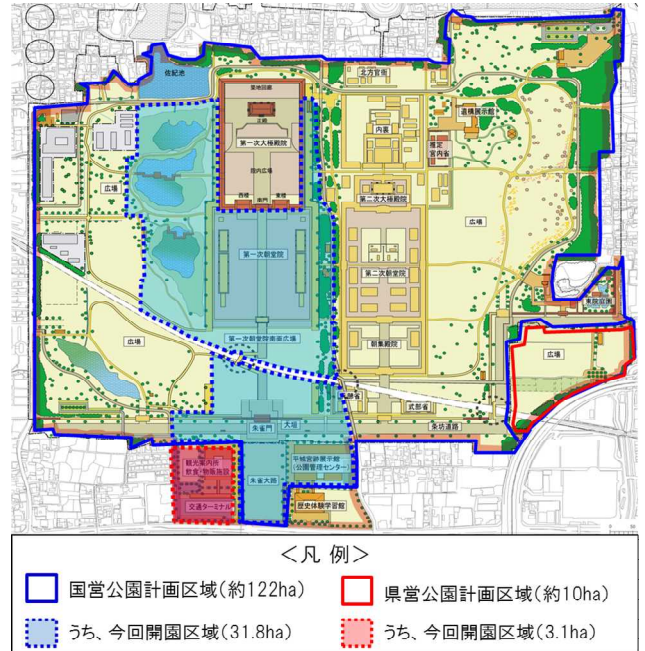


図-2 平城宮跡歴史公園区域図

5. 本公園のゾーニング

公園基本計画では、貴重な歴史・文化資産の確実な保存を前提として、公園の果たすべき役割・導入すべき機能を踏まえて、公園区域を4つにゾーニングしています。

(1) 公園計画の概要

○ シンボルゾーン

復原を行う建物等を中心に、歴史資産を活かした空間づくりを行い、併せて往時を彷彿とさせるイベントや歴史学習のためのプログラムなどを実施し、往時の平城宮の様子を体感・体験するゾーン。

○ 拠点ゾーン

平城宮跡全体のガイダンスや出土品、資料の展示を行う施設、公園の利用案内サービスの提供や管理運営の拠点となる施設、観光ネットワークの拠点となる施設等を集約的に設けるゾーン。

○ 緑地ゾーン

散策や草花観賞、自然観察など、草地や湿地等の環境を活かした多様なレクリエーション利用を行うゾーン。

○ 外周ゾーン

平城宮跡と市街地の間に樹木を植えたり、循環園路や公園の出入口として必要な施設を設けるゾーン。

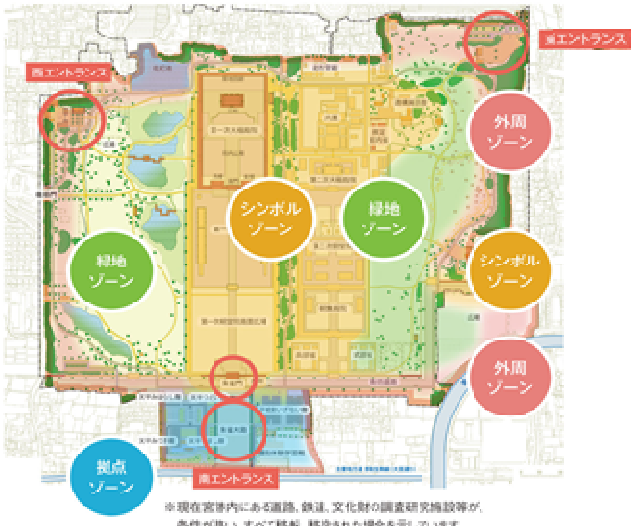


図-3 平城宮跡歴史公園のゾーニング

## 6. 国と県が連携した朱雀門南側エリアの公園整備

### (1) 公園サービスの機能分担

国と県が連携して一体的な公園整備を機能分担することで総合的な公園機能の充実が図られました。

国土交通省は、平城京のメインストリートであった朱雀大路・二条大路を朱雀門前に復元的に整備し、来訪者が「平城宮跡へ来た」と実感できる空間を創出するとともに、平城宮跡歴史公園の見どころ紹介、平城宮跡のかつての姿や人の営みについての体験的展示や出土遺物の読み解き等を通じて、現地にいざなうガイダンス施設の整備を行いました。

奈良県は、朱雀大路西側で公園利用者の利便性向上を目的とした交通ターミナルや奈良にちなんだ飲食物販施設、団体旅行者用の集合施設等の観光拠点施設の整備を行いました。

また、一体的整備にあたっては、県と連絡調整会議を毎月開催し、開園に向けた工程管理や課題調整、広報やイベント活動など常に情報を共有・連携しながら計画的に進めました。

### (2) エリア・各施設の通称の設定について

平城宮跡歴史公園では、さまざまな属性の利用者に対して分かりやすい案内が出来るように、複数のゾーンからなる朱雀門の南側エリアを「朱雀門ひろば」、国土交通省が整備したガイダンス施設を「平城宮いざない館」、奈良県が整備した観光拠点施設をそれぞれ「天平みはらし館」「天平つどい館」「天平みつき館」「天平うまし館」と名づけました。

また、通称名の設定にあたっては、

○本公園が設置される場所の歴史的な意義や経緯も踏まえた適切なネーミング

○整備する5つの施設の施設内容を十分に把握した設置の目的・用途が伝わるネーミング

○ゾーン名及び5つの施設に対して、違和感を感じないよう統一感を持たせたネーミング

であることを条件として、国と県で調整を行い、平城宮跡にかかる関係機関の連絡会議に諮り、決定しました。

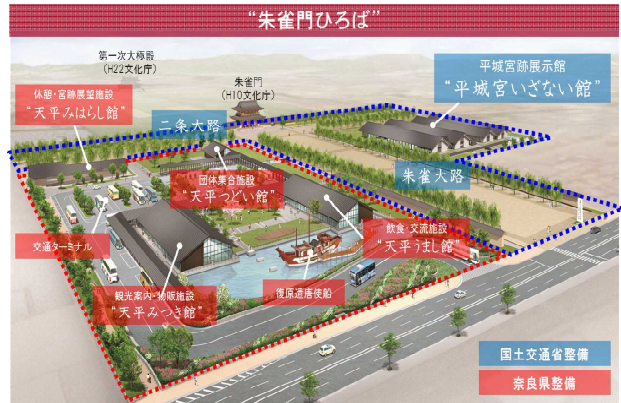


図-4 朱雀門南側エリア「朱雀門ひろば」の公園整備

### (3) 遺構の保護

平城宮跡歴史公園では、国の特別史跡等にも指定され、貴重な歴史・文化遺産を保存する必要があることから、工事の施工にあたっては、奈良文化財研究所と遺構定例会を毎月開催し、事前に発掘調査結果をもとに遺構面を想定して、施工計画が遺構面に影響を及ぼさないよう調整を図りました。また、事前の発掘調査の結果により想定された遺構の状況と異なっていた場合には、施設計画の位置や形状を見直し、遺構の状況に応じた微調整も行っています。

実際の現場施工でも、奈良文化財研究所立会のもと、遺構を確実に保護しながら工事を進めました。

### (4) 施設の概要

#### ●朱雀大路・二条大路の整備 (国土交通省整備)

朱雀大路は、朱雀門から南へ約250mを、二条大路は、朱雀門前の約400mを復元的に整備し、往時の平城京の姿を彷彿させる空間を創出しました。



写真-2 朱雀大路・二条大路

#### ●平城宮跡の魅力伝える「平城宮いざない館」(国土交通省整備)

平城宮いざない館は、平城宮跡歴史公園の意義とす

ばらしさを伝え、往時の面影を平城宮跡へといざなう施設となっています。

また、開園に向けた施設ガイドについては、ボランティア団体と活動内容の調整を図り、開園後の定点ガイドやツアーガイド体制を整えるため、平城宮いざない館ガイドマニュアルを作成し、研修会を開催しました。

【施設概要】

面積：約6,800㎡

施設：展示室1（平城宮のいま）、展示室2（平城宮のようす）、展示室3（往時のいとなみ）、展示室4（時をこえて）、企画展示室、多目的室、休憩室、売店など

展示：4カ国語（日・英・韓・中（繁・簡））による展示や音声ガイド、ボランティアガイドによる解説を実施。また、周辺寺社と連携した特別企画イベントや天平衣装の体験プログラムなども展開。



平城宮の往時の姿を大型映像や平城宮の復原模型(1/200)で解説

写真-3 平城宮いざない館 展示室2(平城宮のようす)



平城宮の営みを第一次大極殿復原にあたり製作された構造模型(1/5)や組物・瓦葺き・木簡文書づくりなどの体験を通じて解説

写真-4 平城宮いざない館 展示室3(往時のいとなみ)

●平城宮跡をさらに楽しむための「観光拠点施設」(奈良県整備)

「天平みはらし館」

：来訪者が平城宮跡を一望できる休憩・展望施設

「天平つどい館」

：公園利用者の案内や平城宮の歴史などを情報発信する団体集合施設

「天平みつき館」

：お土産物などを販売する観光案内・物販施設

「天平うまし館」

：朱雀門や朱雀大路に隣接したレストランやカフェがある飲食・交流施設

「交通ターミナル」

：奈良観光の玄関口として、観光拠点を結ぶ周遊バスや団体バス、タクシー等の乗降施設

「復原遣唐使船」

：かつて「遣唐使」を中国に運んだ「遣唐使船」を復原展示



奈良県内の観光情報の提供、県内の特産品や奈良時代の国際交流都市・平城京ゆかりの物品などを販売

写真-5 天平みつき館



人工池に浮かんでライトアップされた復原遣唐使船

写真-6 復原遣唐使船

(4) 共通のロゴマークの設定について

平城宮跡歴史公園は、国営と県営とに区域が分かれるものの、さまざまな属性の利用者に対して平城宮跡として一体的に公園をPRしていくため、平城宮跡のイメージが容易に伝わり、平城宮跡歴史公園に親しみを持っていただける共通のロゴを設定しました。



図-5 平城宮跡歴史公園共通ロゴマーク

7. 開園に向けた広報及びイベントの取り組み

開園に向けた広報や記念する行事に関する計画を策定し、立案した計画の円滑な実施を図るため、平成29年7月に平城宮跡歴史公園開園実行委員会を組織しました。

平城宮跡歴史公園開園実行委員会は、国土交通省、文化庁、奈良県、奈良市をはじめ交通や観光関係者、地元連合会長など地域住民も含めた多種多様なメンバーで構成され、地域全体が一体となって開園に向けた取り組みを推進してきました。



写真-7 開園実行委員会

開園PRにあたっては、関係機関との連携を通じて開園PRチラシやポスターの配布、各種雑誌・冊子への掲載や観光キャンペーンにも積極的に出向くなど、公園の開園に関するプロモーション活動を全国にわたり展開しました。

また、開園に先立ち開園を予告する予告サイトのホームページを立ち上げ、開園直前に下記のホームページを公開しました。ホームページの言語は、インバウンドを意識した英語、韓国語、中国語(簡体字、繁体字)に対応しており、イベント紹介や利用案内、国営・県営区域の施設情報など、SNSによる情報発信も行っています。

【広報関係】

- PRで参加した全国各地のイベント  
..... 22件
- 開園PRチラシの配布..... 約26万部
- 開園PRポスターの配布..... 約600部
- 各種雑誌・冊子への掲載..... 約30件
- 内覧会の実施..... 近隣住民



写真-8 全国でのプロモーション活動



図-6 開園イベントチラシ



図-7 開園チラシ、ポスター  
ホームページ予告サイト



図-8 平城宮跡歴史公園ホームページ

開園記念イベントは、平城宮跡歴史公園開園実行委員会が主催となって、さまざまな開園特別イベントや体験イベントが数多く企画され催されました。

【開園記念イベントの主なプログラム】

区域	場所	イベント概要
国営区域	朱雀門前	◇ 太鼓や吹奏楽など現在の楽隊による演奏 ◇ 各種大道芸パフォーマンス ◇ 天平衣装体験および記念撮影
	朱雀大路	◇ 「朱雀市」 ・テイクアウトグルメ(各種飲食) ・体験プログラム(天平アクセサリー作り、奈良墨彩色体験、巴形銅器染込み体験 等)
	平城宮いざない館(企画展示室・多目的室)	◇ 企画展「国営公園展～飛躍し続ける国営公園～」 ◇ 体験プログラム(奈良団扇づくり、3Dプリンターで似顔絵フィギュア作り 等)
県営区域	天平つどい館横芝生広場イベントステージ	◇ 阿倍仲麻呂プロジェクト演劇「SUPER天平祭」
	復原遣唐使船前ステージ	◇ ステージパフォーマンス・遣唐使船ライトアップ
その他	◇ セグウェイ搭乗体験 等	
その他	平城宮跡内外	◇ 三輪自転車(シクロポリタン)で周ろう ◇ 史跡ウォーク(羅城門から朱雀門へ) 等



写真-9 大道芸パフォーマンス

また、当日は天候にも恵まれ、開園式典では、多くの来賓に祝辞をいただくとともに、万葉集にちなんだイメージソングの発表や朱雀門前でのテープカット・くす玉の挙行が行われました。

式典を含む開園記念イベント時の平城宮跡歴史公園全体の入園者は、3月24日(土)及び3月25日(日)の2日間で約26,000人が来園する好スタートを切りました。開園後の国土交通省が管理運営する「平城宮いざない館」の入館者数は、5月で32,298人、5月で41,058人と順調な伸びを示しています。



写真-10 開園当日の状況

## 8. 復原公開現場の取り組み及び今後の課題

### ＜復原公開現場の概要＞

今後の整備に関しては、平成29年11月に着工した南門復原整備工事(施工者:清水建設㈱)をはじめとする平城宮跡・第一次大極殿院の復原プロジェクトについて、その施工過程も含めて広く一般へ公開するとともに、立柱式や上棟式など「魅せる現場」のプロジェクトも企画しています。また、「復原事業情報館」や「平城宮いざない館」と連携した展示や各種イベント等を展開し、第一次大極殿院復原に係るPR・誘客促進を図っていきます。

### ＜目的・狙い＞

① 南門をはじめとした第一次大極殿院の往時の姿(復原建物)を復原・公開するのはもとより、その施工プロセスも奈良時代の伝統工法を再現するなどし、それを広く公開することで、当該プロジェクトへの理

解を醸成するとともに、平城宮跡への社会的関心を更に高めていきます。

② 長期間にわたり展開される第一次大極殿院の復原プロジェクトを通じて、そこに関わる各分野(古代建築(文化財)の調査・研究・設計、国産長尺大径木材、宮大工、左官、本瓦)の専門的人材の活躍を促進するとともに、各分野の次世代の担い手の育成を促進する日本の木造建築における壮大なプロジェクトを展開する。平成30年度には木曳き祭を手初めとして特別期間公開を実施する予定としています。



図-9 南門復原公開現場外観のイメージ

### ＜今後の課題＞

開園以来平城宮跡を訪れる観光客からさまざまな意見があり、その中でも特に交通アクセスの問題が取り上げられており、それらの課題に対しては、中央リニア新幹線の新駅計画、京奈和自動車道の全線早期開通、近鉄線移設や平城宮跡南側積水工場跡地開発構想などの動きがある中で、公園施設の利用状況、公園周辺部の土地利用状況や周辺開発の動向等の把握・情報収集しながら、交通アクセスの問題について、地元自治体関係者と連携し、関係機関へ働きかけていきます。

公園管理運営にあたっては、平城宮跡歴史公園の認知度はまだまだ高くなく、新たな来園者や一度来ていただいた来園者のリピーターを増やしていく取り組みが重要になってくるものと思われます。第一次大極殿院の復原事業を活用した復原情報の展示や古代技術の映像による紹介などの現場公開、平城宮いざない館における様々なイベントや企画など来園者を満足させる取り組みに努めるとともに、引き続き歴史・文化遺産を活かした平城宮跡歴史公園の整備を進めていきます。

### ※ 参考文献

- 1) 国土交通省近畿地方整備局:国営飛鳥・平城宮跡歴史公園平城宮跡区域基本計画,2008.12
- 2) 国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所,奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局平城宮跡事業推進室:平城宮跡歴史公園拠点ゾーン整備計画,2013.12